

令和元年度 算数・数学研究部会（読書会）報告

第2回

令和元年7月2日（火） 午後7時00分～ 総合学習センター

『研究論文の書き方』 提案者 愛知教育大学附属特別支援学校 小山 岳彦 先生

1. なぜ、論文は毎年書かれているのか

- ・論文を書くことで、授業が変わり、授業が変われば、子供が変わり、子供が変われば、教師が変わる。
- ・ねらいをもって実践することにより、意図的な教師支援ができるようになる。
- ・振り返り検証することで、学び続けるようになる。
- ・子供の成長した姿（変容）を見ることができる。



2. 教育論文の書き方

○ 研究のねらいが分かる主題設定

(例) 『地域の環境素材を教材化し、自然を見つめ、意欲的に追究する子供の育成』

c. 研究の手立て、方法

a. 研究の目標、ねらい

～4年総合的な学習「みんなのクリーン大作戦」の実践を通して～

b. 研究の対象、領域

○ めざす子供像、仮説、手立てが一貫していること



- ・目の前の子供をとらえる
- ・こんなふう to 育ててほしい という願いの表れ
- ・〇〇において、△△を□□すれば、～～になる
- ・〇〇…場・対象・内容
- ・△△、□□…問題把握・手立ての工夫
- ・～～…めざす子供の変容
- ・仮説「△△を□□すれば」を具体化した教師支援

○ 子供の変容をより客観的・具体的に語る実践

- ・子供の考えかがよく分かる資料を付ける
- ・抽出児（基本は1人、多くて2人）の変容を示す
- ・話し合いの記録を入れる
- ・事実を書く

○ 子供の変容から分析する検証

- ・子供の変容を実践前後の姿から分析
- ・変容をとらえる視点は手立てに対応する仮説のめざす姿

第2回読書会は、愛知教育大学附属特別支援学校の小山岳彦先生から「教育論文の書き方」をご指導いただきました。論文の準備を早めに行うことができると、1学期中に実施しています。参加された先生方の熱心に耳を傾ける姿勢から、論文への意識の高さを感じられました。学んだことを生かし、計画を立てて実践を行い、論文にまとめていただけたらと思います。